

中学校・道徳の内容項目の解説

自主自律・誠実・責任

●中学校学習指導要領（平成20年3月）

1 主として自分自身に関すること	[一般的な呼称例]
(3) 自律の精神を重んじ、自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任をもつ。	自主自律・誠実・責任

●解説

全体的な理解	自ら考え、判断し、実行し、自己の行為の結果に責任をもつことが道徳の基本である。したがって、深く考えずに付和雷同したり、責任を他人に転嫁したりするのではなく、自らの規範意識を高め、自らを律することができなければならない。どのような小さな行為でも、それは自分で考え、自分の意志で決定したものであるとの自覚に至れば、人間はそれに対して責任をもつようになり、生涯において何かをなすときも、それを誠実に実行するようになる。そこに、道徳的自覚に支えられた自律的な生き方が生まれ、自らの責任によって生きる自信が育ち、一個の人間としての誇りがもてるようになるのである。
発達的な観点	中学生の時期は、自我に目覚め、自主的に考え、行動することができるようになる。しかし、一方では自由の意味をはき違えて奔放な生活を送ったり、周囲の思惑を気にして他人の言動に左右されてしまったりすることも少なくない。また、自分自身にかかわる行為が自分や他人にどのような結果をもたらすかということ深く考えることができない面も見られる。
指導の着眼点	指導に当たっては、自己の尊厳に気付き、何が正しく、何が誤りであるかを自ら判断して望ましい行動がとれるようにすることが大切である。そのためには、悪を悪としてはっきりとらえ、それを毅然としてしりぞけ善を行おうとする良心の大切さに気付くようにしなければならない。良い行為とは、自分にとっても他人にとっても良い行為である。この意味で、自分の行為の動機の純粹さとどまらず、その行為が及ぼす結果についても深く考えられるようにすることが必要である。自由を放縦と誤解してはならず、自分や社会に対して常に誠実でなければならないことを自覚し、人間としての誇りをもった、責任ある行動がとれるように指導することが大切である。

文部科学省「中学校学習指導要領解説・道徳編」（平成20年9月）より

■参考：小学校学習指導要領（平成20年3月）

1 主として自分自身に関すること	[一般的な呼称例]	
高学年	(3) 自由を大切にし、自律的で責任のある行動をする。	自由・自律・責任
低学年	(4) うそをついたりごまかしをしたりしないで、素直に伸び伸びと生活する。	正直・明朗
中学年	(4) 過ちは素直に改め、正直に明るい心で元気よく生活する。	正直・明朗
高学年	(4) 誠実に、明るい心で楽しく生活する。	誠実・明朗